

円安ドル高エネルギーは再び回復へ

日 銀追加緩和期待の後退やギリシャ不安等に伴うリスク回避によって、ドル円は上値の重い展開が継続。好調な米雇用統計などから2月中旬に一時120円台を回復したが持続せず、足元では118円台に戻っている。現状は、“ドル高”、“円安”ともにエネルギーが不足気味だ。

この状況は当面解消されなさそうだが、春には再び円安ドル高局面を迎えそうだ。この頃にはリスク回避の円買いを引き起こしているギリシャ問題を巡る緊張が緩和に向かううえ、原油価格にも需給改善期待に伴う持ち直し傾向が出てくると予想される。また、米国の利上げ接近がより意識されるようになる一方で、物価上昇率の下振れによって日銀の追加緩和期待が再燃し、日米金融政策の違いが再び際立つと予想される。本邦貿易収支の大幅な改善は円安阻害材料だが、金融政策の違いによる影響力が勝り、円安ドル高に向かうと見ている。

ユーロ円相場は、3月からのECB量的緩和開始を材料として一時的にユーロ売りが強まる場面も想定されるが、材料としては織り込み済みであることや、ギリシャ不安の緩和、日銀追加緩和期待から円に対するユーロ売りは続かず、3ヵ月後は現状比横ばい程度と見る。

長期金利は、最近不安定化し上昇してきたが、日銀が大量に国債を買入る中で上昇余地は小さい。時間が経つにつれて、様子見している投資家からの買いが戻り、金利低下圧力になるだろう。一方で、米金利上昇やリスク回避の緩和が上昇圧力となるため、強弱材料が拮抗する形となり、3ヵ月後は現状と大差ない水準になると予想。

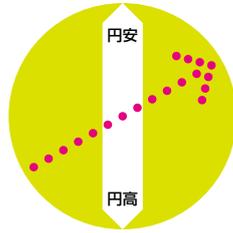


シニアエコノミスト **上野 剛志**
 うえの つよし | tueno@nli-research.co.jp
 1998年日本生命保険相互会社入社、
 2001年同融資部門財務審査部配属、
 2007年日本経済研究センターへ派遣、
 2008年米シンクタンク
 The Conference Boardへ派遣、
 2009年ニッセイ基礎研究所(現職)。

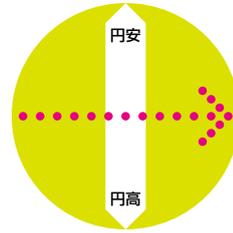


Market Karte

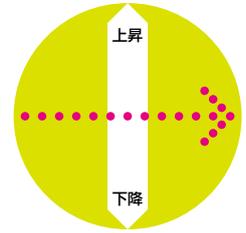
March 2015



ドル円・3ヵ月後の見通し

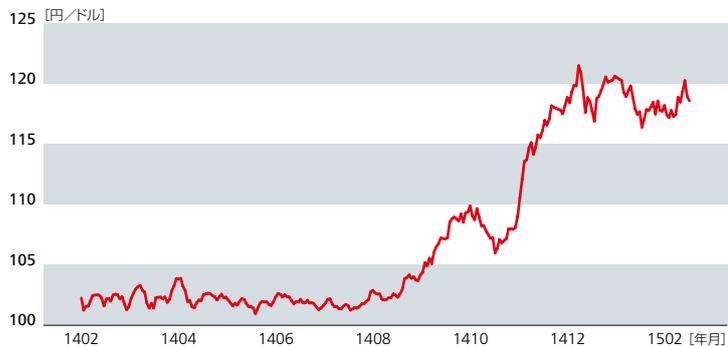


ユーロ円・3ヵ月後の見通し

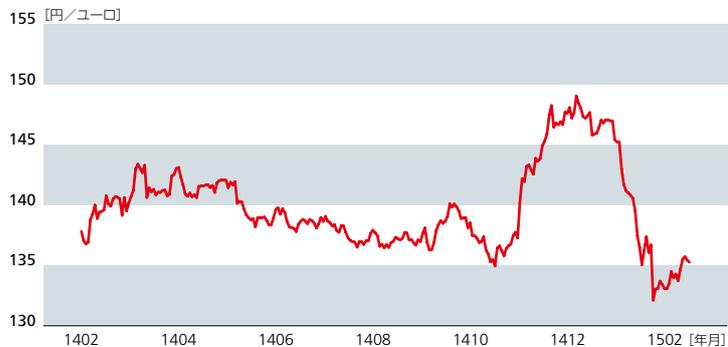


長期金利・3ヵ月後の見通し

ドル円為替レートの推移[直近1年] 資料:日本銀行



ユーロ円為替レートの推移[直近1年] 資料:ECB



長期金利(10年国債利回り)の推移[直近1年] 資料:日本証券業協会

